

○事業所名	このこのリーフ亀戸			
○保護者評価実施期間	2026年3月8日		～	2026年3月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	2026年3月8日		～	2026年3月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数)	11名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年4月28日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【職員間の情報共有と連携】 定期的な意見交換や申し送りを通して、職員間で密な情報共有と連携が図られています。チームでの活動プログラム立案、支援前後の打合せが定着しており、スタッフ間で対応方針が共有されている点は保護者からも高く評価されています。	【職員の見聞交換と多層的な情報共有】 定期的な意見交換に加え、非常勤職員へのフォローアップ、社内アプリやLINEでの情報共有など、多角的な情報共有の仕組みを構築。支援開始前後の打合せもルーティン化されています。	【運動系プログラム及び個別空間の充実】 現在の活動プログラムに加え、運動系プログラムをさらに充実させていくとともに、個別に集中・休息できる場所の確保についても工夫を進めています。
2	【保護者との丁寧なコミュニケーション】 連絡帳やLINEを活用し、日頃から子どもの状況を保護者と伝え合うことで、発達状況や課題について共通理解を持つよう努めています。保護者アンケートでも、スタッフ対応・連絡伝達・送迎対応に高評価をいただいています。	【多様な活動プログラムの提供】 職員それぞれの得意分野を活かし、活動プログラムをチームで立案することで、工作・キッチン・外出活動など多様なプログラムを提供しています。プログラムが固定化しないよう工夫する意識も高いです。	【第三者評価の実施と外部視点の導入】 業務改善の一環として、第三者による外部評価の実施を検討するとともに、地域の児童発達支援センター等からスーパーバイズや助言を受ける機会を増やしていきます。
3	【定期的な業務改善の取り組み】 PDCAサイクルに基づき定期的に意見交換を行い、業務改善を進めるための取り組みを実施。職員の意見等を把握する機会を設け、業務改善につなげる体制が構築されています。	【子どもの自己選択を促す支援】 子どもが自己選択できるような支援の工夫を行い、自己決定する力を育てる支援に取り組んでいます。子どもの最善の利益を考慮した個別支援計画の作成・共有も徹底されています。	【地域との交流・連携機会の創出】 地域に開かれた事業運営を目指し、放課後児童クラブや児童館との交流、自立支援協議会等への参加、事業所行事への地域住民の招待など、地域との交流機会を計画的に企画していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【活動スペースの広さと個別空間の確保】 指導訓練室は机での作業には充分ですが、身体を動かす活動には狭く、必要に応じて個別の部屋や場所を確保するような環境にも制約があります(自己評価Q4・Q5で課題)。	【施設の構造上の制約】 事業所が中2階にあり階段昇降が必要、トイレまでに段差があるなど、活動スペースの狭さやバリアフリー対応の不足さは、施設の構造上の制約が大きな要因です。	【限られた空間内での活動の質向上】 限られた活動スペースの中で、活動の質を高めるレイアウト工夫や、集中・休息が必要な子どもへの個別対応の工夫を継続的に進めています。
2	【地域連携・地域交流の不足】 放課後児童クラブや児童館との交流、自立支援協議会等への参加、地域住民を招いた行事などが十分に行えていません(自己評価Q32・Q33・Q45で課題)。保護者アンケートでも地域交流への評価が分かれています。	【地域ネットワークの構築途上】 事業所単独で完結する支援に注力してきた経緯から、地域の関係機関・住民とのネットワーク構築がこれからの段階にあります。	【地域連携の段階的拡充】 自立支援協議会への参加、児童発達支援センターとの連携強化、学校・保育所等との情報共有の場を、年度計画に組み込んで段階的に拡充していきます。
3	【家族支援プログラム・保護者交流の機会不足】 ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムや、父母の会・保護者会等の保護者同士の交流機会が十分に提供できていません(自己評価Q35・Q40、保護者アンケートQ14・Q18で課題)。	【家族支援・保護者交流の体制未整備】 日々の連絡帳・LINEでの個別コミュニケーションは充実している一方、集団としての保護者支援プログラムや交流の場の設計・運営体制がまだ整っていません。	【家族支援プログラムの企画と保護者会の開催】 家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の試行的導入、保護者会・きょうだい交流イベントの開催に向けて、企画・運営体制を整えていきます。

事業所名	このこのリーフ亀戸
------	-----------

公表日 2026年5月28日

利用児童数

	チェック項目	利用児童数				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7	3	0	0	【保護者ご意見（抜粋）】  ・いつもありがとうございます。少しずつ出来ることが増えてきたのは教室での日々の積み重ねだと実感しています。気長に教えてくださるので、しっかりと身につきます。ケガしてるときにも、いつもとどこが違うとか、このくらいなら大丈夫とか、子供のことをわかってくれるからこそその助言をいただくので本当に助かります。先生たちを信頼しているので、つつい頼ってしまいます。  ・長い間利用しています。学校の振替休日などはすごく助かります。最初はスタッフの入れ替えが激しかったですが、今は長く付き合っている先生がいて話しやすいです。  ・いつもいい顔をして帰ってくるので、楽しんで過ごしていることがよく分かります。問題行動だけでなく、よかった点をたくさん褒めてくださるので、親としても嬉しく思います。  ・スタッフの皆さんには子供を本当によくみていただいでいて、子供の成長と一緒に見守ってくださって、かつ適切なアドバイスもいただいています。	スタッフ対応・療育内容・連絡伝達への高評価を多数いただき、日々のサービス改善の励みとさせていただきます。  頂いたご意見・ご要望（保護者同士の交流機会、土曜活動内容、LINE問合せの返信徹底、送迎連絡の改善等）については、令和8年度の改善計画に反映し順次対応してまいります。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	8	2	0	0		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9	0	1	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9	0	0	0		
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10	0	0	0	・いつもお世話になっております。子どもも楽しそうに通所していて、良い放デイに出来たと感じています。  ・我が子のご迷惑のかけっぱりにいつ利用を断られちゃうのかとハラハラしているくらい、懲りずにお預かりいただき、一緒に成長のサポートをしてくださること、心から感謝しています。  ・土曜日に収穫ばかりなのはなんとかありませんかね？  ・スタッフ間で子どもへの対応方針が共有、徹底されているので、スタッフ間の対応の差が出ることなく、本人が戸惑うことなくこのこのさんではずさせてるのがとてもありがたいし、助かっています。他の曜日にも利用させていただいたら嬉しいです。  ・スタッフの皆さんには、フレンドリーに接していただけてることが、一番の(本人)安心へと繋がっています。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10	0	0	0		
	7 子どものことを十分に理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9	1	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9	1	0	0		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9	1	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9	0	1	0		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	3	3	4	0		
保護者への 説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10	0	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	3	2	0		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	10	0	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9	0	1	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9	0	1	0		
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	3	6	0			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9	0	0	0
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9	0	1	0
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7	2	1	0
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10	0	0	0
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	2	0	0
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9	1	0	0
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	1	0	0
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10	0	0	0
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10	0	0	0
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10	0	0	0
	29	事業所の支援に満足していますか。	9	0	1	0

事業所名		このこのリーフ亀戸		公表日 2026年5月28日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		指導訓練室は机での作業に必要な広さを確保し	身体を動かす活動には狭く、運動系プログラムの拡充が課題。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		送迎・常勤・非常勤を含め必要な配置数を確保。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		掲示物・スケジュール表・場所の使い分け等で	バリアフリー化（中2階・段差等）に施設構造上の制約あり。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日々清掃を実施。活動別に空間を整える運用。	清潔感を保つ運用の徹底と消毒継続が課題。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	△(はい3/有効11)		個別対応が必要な場合は職員室や別空間を活用	個別空間の確保に限界。レイアウト工夫を継続。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		定期的な意見交換・申し送りでPDCAサイクルを回している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年度末に保護者アンケートを実施し改善に反映。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティング・社内アプリ・LINE等で職員意見を把握。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	△(はい4/有効10)		今後の検討課題。地域児発センターへの相談を	第三者による外部評価をまだ実施できていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内研修・外部研修への参加機会を確保。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページ上で支援プログラムを公表済み。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		個別アセスメントを実施し計画書に反映。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児発管が中心となり、支援職員と協議の上で計画作成。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画書はチーム内で共有、支援に反映。	担当業務外の職員への計画共有を強化していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		行動観察・記録による継続的アセスメントを実施。	標準化されたアセスメントツールの導入余地あり。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインの4領域（本人・家族・移行・地域）を踏まえて計画作成。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		チームで活動プログラムを立案。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節・行事・テーマを変えてプログラムを更新。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別/集団活動を組み合わせ計画的に提供。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前のミーティングで内容・役割を確認。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後のミーティング（時間制約により送	支援終了後の打合せ時間確保が物理的に難しい場合がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日報・連絡帳・記録ソフトで支援記録を残す。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期モニタリング・必要時の計画見直しを実施。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○		4つの基本活動を組み合わせさせて支援。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動・教材の自己選択場面を設けている。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		相談支援事業所のサービス担当者会議に参加。	サービス担当者会議への参加機会の安定化が課題。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		医療・保育・教育機関との連絡体制を整えている。	関係機関との連携体制の見える化が課題。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校と連絡帳・電話で情報共有・連絡調整。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	△（はい5/ 有効10）		保育所・幼稚園等とは保護者経由で情報共有。	就学前事業所との情報共有を体系化することが課題。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	△（はい5/ 有効10）		移行時の情報提供を実施。	移行支援先との情報引き継ぎの定型化が課題。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	△（はい3/ 有効10）		児童発達支援センターへの相談・研修参加。	児童発達支援センターからのスーパーバイズ受講機会を増やす。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		今後の課題。	放課後児童クラブ・児童館との交流機会の創出が課題。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		今後の課題。	自立支援協議会等への積極的な参加が課題。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳・LINE・送迎時の対話で日常的に共有。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	△（はい4/ 有効11）		今後の課題。個別の助言は適宜実施。	家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の体系的提供が課題。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に運営規程・支援プログラム・利用者負担を説明。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		モニタリング時にこども・家族の意向を確認。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画書を示しながら説明し、同意を得て交付。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		面談・送迎時の対話で相談に応じている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	今後の課題。	父母の会・保護者会・きょうだい交流の場の設計・運営体制が未整備。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情受付窓口を設置・周知している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		HP・SNSで定期発信。連絡帳・LINEで個別連絡。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報取扱規程に基づき適切に管理。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚支援・平易な表現・代替手段を活用。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	今後の課題。	地域住民を招いた行事の企画・実施が課題。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを策定済み。職員研修・訓練を実施。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定済み。避難訓練を定期実施。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		連絡帳・引継ぎで服薬・体調情報を確認。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の指示書に基づき食物アレルギー対応。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を策定。訓練を実施中。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画の概要を保護者に周知中。	安全計画に基づく保護者周知の徹底が課題。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを記録・共有し再発防止策を検討。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止研修を職員に実施。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束の運用方針を明文化済み。		